

B-148 着物衿に関する幾何学的基礎研究 (第3報) 衿の曲面形状について

共立女短大 ○綾田雅子 吉田悦子 関山和世

実践女大家政 平岡和春子 共立女短大 岩谷恭子 山口正隆

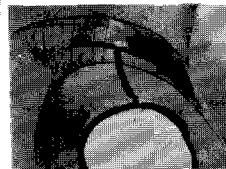
目的 着物衿の立体曲面形は、衿つけ線の形状および体形によって各種曲面形が考えられる。本報では衿つけ曲線と衿端縁曲線との関係を測定し、立体幾何学的に検討することを目的とした。

方法 衿を一次曲面の範囲に限定し、材質の影響や変形の要因がないものと仮定して形状測定に便利なように透明フィルムを用いて構成した。右の図と写真は各位置がわかるように黒線記入した透明フィルムの着装状態を示す。すなわちボディ上に人為的にフィルムを設定し、次に第1報で示した方法で写真撮影して曲面状態を測定する。衿つけは衿肩明きを1とし、衿幅 α 、後衿つけ曲線 $f(x)$ 、前の衿合わせ角度 θ 等を変え(理論的に)、それぞれの組合わせ条件による特性を求める。

結果 着物衿の曲面形状は各種素因によって変化するが、これらはいずれも衿幅を α とすると第2報に示す衿端縁の長さの差 $\alpha \tan(\frac{\pi}{2} - \theta)$ を基本として変化することがわかった。



〈曲面フィルム写真〉



〈モデル図〉

